

アースサポートが全国展開へ

食品リサイクルも推進

様々な廃棄物の処理を行っているアースサポート(島根県松江市)は、現在山陰、山陽地方を中心に実施している、フランチャイズチェーンを対象とした廃棄物処理の管理代行サービスの全国展開を目指す。また、松江市内で発生する事業系の生ごみを堆肥化し、自社生産農場で使用した後、農業生産物をスーパーなどに販売するという食品廃棄物のリサイクル・ループの取り組みも今年度から本格化させていく。

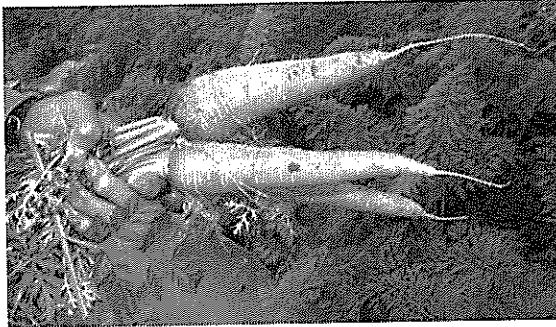
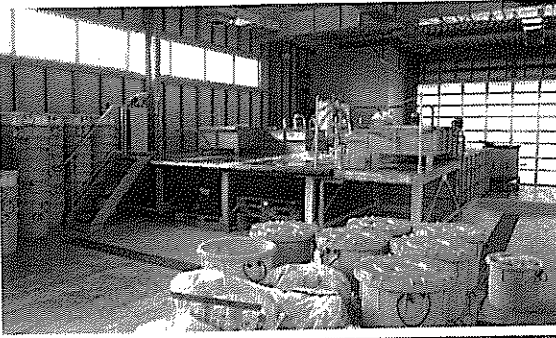
コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどでは通常、店舗ごとに地域の廃棄物処理業者と契約を結んで処理を委託しているが、このサービスでは廃棄物処理で多様なネットワークを構築している同社が、業者選定や排出量などの管理を一括で引き受けることで、様々な種類の廃棄物でも個別に委託業者を探して契約する手間を省くことができ、効率的で安定した処理を可能にする。さらに、国や自治体などにおける法制度などに関する情報提供なども行っている。

同社では昨年からこのサービスを開始しており、現在では山陰、山陽、近畿地方などで約150店舗と契約を結んでいる。法令順守などのコンプライアンスのチェック機能としても需要が増加しており、今後、東日本など全国に事業範囲を拡大していく方針だ。

管理代行サービス拡大

廃棄物処理

昨年6月に完成した液肥製造プラント



アースファームでは液肥を利用した農産物生産も行っている

サイクル・ループを構築している。昨年6月に完成した液肥製造プラントは、12月1日(6月1日×2基)の処理能力を有している。ここでは、市内で発生した事業系一般廃棄物

プラリサイクル促進を 国際プラスチックフェア開催

3年に1度開催されるプラスチック関連技術・製品の国際トレードショー「国際プラスチックフェア2008」(主催・国際プラスチックフェア協議会)が11日、盛況の内に閉幕した。今回は、2878小間に993社・団体が出展。5日間で合計6万6642名が来場した。



DBOで焼却灰セマ 横浜市が原料化率

横浜市は、最終処分量のさらなる削減に向けて、焼却灰のセメント資材化を計画している。このほど公表した実施方針によると、年間5万トンの焼却灰を民間のセメント工場に輸送し、原料化するとしている。

3R社会

22

太平洋セメント埼玉工場では、通常のセメント製造に加えて都市ごみを直接セメント原料として活用できる「AKシステム」による廃棄物の再資源化を推進している。また、燃料転換の一環として、CFB(循環流動炉式)ボイラーも導入し、木質バイオマスと石炭の混焼によるエネルギーの効率化を進めている。

生分解反応で安全・衛生的に原料化
太平洋セメント埼玉工場は、埼玉県日高市に位置し、セメント生産能力173万トンを誇る施設。セメント原料として都市

利用して生分解反応(発酵)させ、普通ポルトランドセメントの原料としてリサイクルするシステム。さらに好気生分解

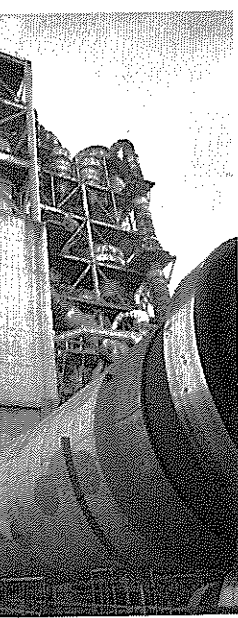
燃料転換へ木質バイオ

自治体の焼却施設で発生する焼却灰をセメント原料として受け入れる例は多いが、都市ごみそのものを原料として受け入れる施設は、同グループ内でも同工場のみとなっている。現在、同工場では日高市で発生する1万5千トンの年間程度の可燃ごみを受け



建設廃材なども破砕・選別に より良質な燃料用木くずに

での直接搬入が可能なら、中間処理が不要となり、経済的なメリットも見込まれる。そのほか、埼玉工場では下水汚泥なども原料として受け入れている。合



都市ごみを資源化するAKシステムのごみ資源化キルン

環境負荷の高い重油からの燃料転換に向けて、CFBボイラーを設置し、石炭と木質バイオマスによる混焼物が入り、発電も行っている。ボイラーの能力は、178万キロワット、出力は4万9500キロワット。発電により得た電力は、工場内で使用するほか、余剰分

は東京電力に売却し、最終処分量の削減に向けて、横浜市で発生する都市ごみを

太平洋セメント埼玉工場 AKシステムで都市ごみ資源化

建設廃材なども破砕・選別に より良質な燃料用木くずに